

黒く！青く！水戸を語る

～水戸黒～



水戸市立三の丸小学校

6年2組

東河 梨

星 沙祐里

谷田部 まい乃

< 目次 >

1 ... 研究の動機

2 ... 研究の進め方

3 ... 研究の内容

(1) 水戸黒の歴史

(2) 水戸黒を作る工程

(3) 大川哲さんにインタビュー

4 ... 研究のまとめ

1 研究の動機

今学校では藍の種プロジェクトに参加して藍を育てています。その時に先生方から「水戸黒」という古くからある染色法を聞き興味を持ちました。さらに水戸黒に「水戸」という名が入っているので水戸市に住むものとして、関心を持ちました。

2 研究の進め方

水戸黒について調べることになり、先生にも協力してもらいながら研究を進めました。まず、本やインターネットで調べてみました。本にはあまりの、ておらず、インターネットで水戸黒を行っている工場を見つけました。そこで、許可をいただき、7月21日にインタビューに行きました。そこでは、質問をしたり、実物を見せてもらったり、写真をとらせていただいたりしました。何度も集まり、話し合ったり、それぞれの役割を分担したりして、皆で文章を書き上げました。

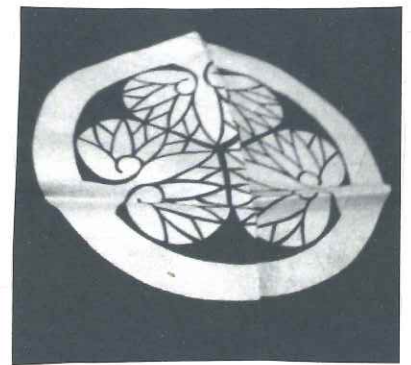


3 研究の内容

(1) 水戸黒の歴史

「水戸黒」というのは、江戸時代から始まった、水戸ならではの染色技法です。

昔、水戸黒で染められたものは、とても貴重で、お金もかかるものでした。それは、水戸藩の時の様や、藩しのための「羽織」「袴」「袴」などに使われていました。「水戸黒」は、水戸藩2代藩主の徳川光圀も愛用していたと言われています。



水戸黒の技法は、藍やヤシャブツ、鉄しょうなど

を使って「下染」「伸子張り」「引き染め」などといったとても手のかかる作業なのです。それを何度かくり返すので、当然時間もかかります。

江戸時代では、紅花などを下地にした赤みがかかった黒「びんろうじ黒」が中心でしたが水戸藩の藍染めを下地にした水戸黒は、青みのかかった黒でした。

水戸黒は「亀屋」というところでしか製作が許されていなかったようで、2代目の益子栄寿さんまで受けつがれたそうです。しかし、水戸黒は明治時代から「化学染料」が使われ

るようになり、途絶え、幻の染技法となってしまいました。その後、益子永寿さん、阿部忠吉さんに伝授されました。しかし、阿部忠吉さんも亡くなり、また水戸黒は絶えてしまいます。

現在、大谷屋染工場さんの大川さんは、「水戸黒」を絶やさず、受けついでほしい」という願いがあります。

(2) 水戸黒を作る工程

水戸黒の工程を下にまとめてみました。

- ① 布を均等に水に浸す。
- ② タオル等で水分を取る。
- ③ 藍液に浸す。
- ④ 3~5分後に引き揚げ軽く水洗いする。
- ⑤ ④のあと20分くらい酸化発色させる。
- ⑥ 思い通りの濃さになるまで③~⑤の作業を繰り返す。
- ⑦ 酢酸水(10cc~50cc/リットル)に5~10分位浸した後、軽く絞り乾燥させる。
- ⑧ 夜叉(矢車)の染色も刷毛でムラなく引き染めし1回ごとに乾かしそれを表2回裏2回染める。
- ⑨ ⑧が乾いたら鉄漿水(こしょうすい)に浸しすぐに引き揚げ5~10分位発色させよく水洗いをする。そして乾かす。
- ⑩ ⑨が乾いたら⑧からの手順を繰り返す。
- ⑪ 思い通りの黒に発色したら酢酸水に浸し十分酸性にする。

⑫ 被染物を20分ぐらい温湯に浸す。

⑬ 乾燥後必要に応じて色止め処理をして、
“完成”

この①～⑬までの工程を終えるまでに1週間かかるそうです。

⑭までは、ふつうの
藍染めです。



(3) 大川哲さんにインタビュー

現在、水戸黒を行っている大谷屋染工場の大川哲さんにインタビューをしてきました。
お仕事が忙しい中、ていねいに答えをいただきました。

Q 水戸黒はどんなものに使われていた？

A 江戸時代下、水戸藩の紋付の羽織にだけ使われていました。

もともと黒染めは赤みがかった黒でした。
しかし、水戸藩だけは青みがかった黒でした。
それがとてもよく目立ったので、「水戸黒」と呼ぶようになった。



Q 今までどのようなようにして受けつがれてきたのか？

A 私が水戸黒を始めたとき、かけは、水戸市の観光課から依頼が来たことです。た、た1枚の紙に13の工程が書かれていて、それだけが頼りでした。



染物店を営んでいた大川さんも水戸黒を始めると決断するまで時間がかかったそう...。現在水戸市で水戸黒を行う店は、2軒だけです。

Q 工夫はありますか？

A 全部です。

他に水戸黒をやっている教えてくれるような人はいないので、自分で考えてやれたため、全部が工夫なんだそうです。



Q 水戸黒への願いや想いは？

A 「水戸」とついて、るくらゐなので、せめて水戸のみんなに知っていてほしいなあ.....。



水戸黒で染めた物は色落ちが激しく、商品にするのが

難しいそうなので、小物しか売られていません。



その他にもいろいろな
ことを考えさせていただきました。
↓

- ・ 水戸黒はとても大変で時間がかかる。
- ・ +モ 大川さんも今は年に1、2回くらいしか行っていません。
- ・ その歴史や技術を説明すれば「貴重なものだ」とわかってもらえるのだが、他の普通の黒い生地と並べてしまうと、区別がつきにくい。
もっと特長がなければなあ... 大川

◦ 趣味的にやる人はいるかもしれないが、職業としてこの技術をフグ人はいない!

✦本業がおろそかになってしまうため...

水戸黒の材料であるヤシャアジシをもらいました。
これは大川さん自身が、日立
の方で採ってきたもので、ヤシャ
アジシは水戸付近では採れない
んだそうです。



4 研究のまとめ

私たちは初め、水戸黒
というものがあることを知りませ
んでした。学校で藍を育
てていたのので、藍に関わりがあると聞いて興味
を持ち、3人で調べることになりました。図書館
をまわったり、インターネットを使って調べたりもしたか

水戸黒に関する資料はあまり見つからず、とても苦労しました。そんな中で、大谷屋染工場さんがインタビューを受けてくださり、いろいろなお話をしてくださり、とても助かりました。現在、大川さんの技術を引継ぐ人がいないことを悲しく思います。それでも、初めは水戸黒についてなにも知らなかったけれど、今まで言われてきた水戸黒が歴史と伝統のある素敵なものだとかわかりました。私たちのこの研究を通して、たれかに、水戸黒のすばらしさが伝わればいいなと思います。



<参考文献>

深色家 阿部忠吉「水戸黒～伝統を受けつぐ」
出版 常陽芸文センター

郷土むたち第33号
出版 郷土むたち文化研究会